

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に22字×33行、横書きで作成する。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号および住所）を記す。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設ける。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入する。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下とする。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 独立行政法人・動物衛生研究所 山本孝史」宛とする。

〔編集後記〕

20号の発刊が大幅に遅れてしまい、誠に申し訳ございませんでした。編集子が風邪をこじらせた後喘息の発作が起きるようになってしまったことが原因です。真夜中の発作で体力を消耗し、さらにアルコールを控えざるを得なくなって翌日のエネルギーが蓄えられないという悪循環に陥ってしまいました。研究会事務局の小林、林両氏には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。家内工業的編集の危うさを痛感しました。これを機会に近代的な編集作業への移行が必要と思います。

それにしても咳き込むことが大変なエネルギーを消耗することを実感しました。肺炎による飼料効率の低下は、肺炎病巣によるばかりでなく発咳

の程度にも左右されるということをも身をもって学んだ次第です。

わが国でもBSE罹患牛が出たことは衝撃的でした。しかしなぜ衝撃的と感じたのでしょうか。いうまでもなく、「発生するはずがない」と思いこんでいたからこそ衝撃的であったわけです。ではなぜ「発生するはずがない」と思いこんでいたのでしょうか。BSEの原因は異常プリオンに汚染された肉骨粉です。わが国は英国からの肉骨粉の輸入を1996年以降、輸入しないよう行政指導しておりました。この行政指導で英国から肉骨粉がわが国に入ってくることはないと考えたことが、「わが国では発生するはずがない」と思いこんだ要因ではないでしょうか。原因がないのだから結果が出るはずがないと考えるのは当然です。でも現実には発生してしまいました。ということは現実には汚染肉骨粉がわが国に入り込んでいたということであり、一片の通達ではわが国の経済活動を律することはできないという事実を私たちは知らなかったということになります。

一方英国はこのような汚染肉骨粉を何故輸出し続けたのでしょうか。英国でも、「輸出禁止にすべきだ」との議論があったそうですが、「輸入するかしないかは相手国が決めることだ」という英国政府高官の発言がまかり通ったとのことでした。

わが国におけるBSEの発生は、このほかにも表示偽装等さまざまな問題を浮かび上がらせてくれました。これを機会にこのような問題をじっくり考えて行こうと思っています。

(山本)

「All About Swine」

第20号 2002年5月発行 定価1,500円
発行所 日本SPF豚研究会
〒305-0856
つくば市観音台3-1-5
動物衛生研究所